

9 学内委員会

1) 自己点検・評価委員会

平成23年度の自己点検・評価委員会では、主に、認証評価機関(公益財団法人大学基準協会)による認証評価(大学評価)の受審に向けた準備及びその対応を行った。開催回数は計6回であった。

認証評価の受審に際しては、前年度末に提出した自己点検・評価報告書の記載をもとに、秋口に実施された実地調査について、日程調整、各種準備(各意見交換会、学生インタビュー、施設見学)、事前資料送付など、当日に向けて遺漏のないように取り組んだ。

実地調査は、10月13日(木)及び14日(金)の両日、桑園キャンパス及び芸術の森キャンパスそれぞれで実施されたが、委員会では、複数の意見交換会、学生インタビュー、施設見学、授業参観などの調査項目について事前に学内参加者と打合せを行うなど、円滑な調査に向けて準備を進めた。

実地調査を終え、12月下旬に同協会より送付された評価結果案に対して、委員会で審議し、2件の字句修正依頼及び3件の意見申立を行った。

上記を経て、平成24年3月に最終評価結果が送付され、本学は同協会の大学基準に適合しているとの認証を受けた。この認証に際しては、2点の努力課題が付されたが、これらに関する同協会への回答については、回答期限(同協会が3年後までと規定)を待たずに、対応・改善がされた段階で行うことを委員会で確認した。

また、上記認証評価結果については、スタッフブログやホームページへの掲載などにより、学内外に向け公表した。

その他の委員会活動では、①次年度以降の自己点検・評価活動の進め方についての協議、②平成23年度年度計画進捗状況報告、実績報告に関わる取りまとめ及び平成24年度年度計画の本委員会に関わる項目の原案作成、③同協会主催の実務説明会に参加(6月8日(水)開催)等が挙げられる。

上記①の協議では、次回の認証評価は、次期中期目標期間にあわせて6年後の平成29年度に受審することとした。これに伴い、認証評価に係る評価項目と、期間評価及び年度評価に係る評価項目の対応表を作成し、評価項目として重複する箇所を明確にすることで、複数の評価を受けるための作業軽減を図ることとし、認証評価時に必要となる大学基礎データ集についても、毎年、必要なデータを継続的に収集・蓄積していくこととした。

また、各評価項目について、それぞれの取り組み状況を半期又は四半期ごとのPDCAサイクルにより検証することとし、本委員会は、これらに関して内部監査機関としての役割を果たしていくことを確認した。

2) 総務委員会

平成23年度は10回の委員会を開催した。

芸術の森キャンパス内の火気使用管理区域の暫定措置について、デザイン学部学生支援委員会からの要望を受け、検討した。

平成23年度年度計画進捗状況報告書について、実施状況報告案を検討した。

平成23年度卒業式・修了式について、新たに大学院修士課程修了者が加わることに伴い、式典の実施方法等について検討するとともに、平成24年度入学式についても、実施方法の検討を行った。

3) FD委員会

平成23年度は、FD委員会として、教員の資質向上、情報の共有化、情報収集のため、学内研修会の開催及び学外研修会への教員派遣等を積極的に行った。10回開催したFD委員会では、FD活動の方針について論議するとともに、FD活動それぞれについて、実施前後にその内容の確認・検証を行った。

平成23年度の具体的な活動として、全学FD研修会(13回)、各学部・研究科のFD研修会(13回)、学外研修会への教職員派遣(5回延べ10名)、授業評価アンケートの効果的な活用、本学学生及び教職員への授業評価アンケートの集計結果に関する所見の公開、教員相互の授業参観等を企画・実施した。

また、「北海道地区FD・SD推進協議会」に幹事校として参加し、大学間のFD活動交流にも関わって

いる。

4) 広報委員会

「年報」「ホームページ」「大学案内等」の3つのチーム編成により計7回の委員会を開催し、機能的に活動した。

<年報>

平成22年度年報を400部制作し、札幌市、公立大学、道内大学等へ発送したほか、全教職員に配布した。また、次年度は年報に掲載している情報を公式サイトに掲載することとし、冊子体を廃止する方針を決めた。

<ホームページ>

利用者が本学に関する情報を容易にかつ迅速に把握できるよう、逐次更新を行った。

<大学案内等>

- ・2012大学案内を23,000部印刷し、公立大学、道内大学、札幌市などに発送した。
- ・2013大学案内について検討し、デザイン企画制作を行った。
- ・2013大学院案内について検討し、博士課程の情報を加えてデザイン企画制作を行い、3,000部印刷した。
- ・2013助産学専攻科リーフレットについて検討し、1,200部印刷した。

<その他>

- ・広報・記録用の写真撮影について、年度初めの学生向けガイダンスで広報記録のため撮影がある旨を連絡し、撮影時はこれまで同様、都度教員から撮影がある旨学生に伝える方針を決めた。
- ・今後の広報業務のあり方について、平成24年度広報委員会で協議をする方針を決めた。

5) 倫理委員会

倫理委員会は研究を遂行する際に、被験者(研究協力者)等の人権擁護の観点から、研究倫理に則った十分な配慮をした研究計画になっているかを審査している。

平成23年度は原則、毎月末日を研究倫理審査申請の締切りとし、毎月第2水曜日に委員会を開催した(計13回開催、臨時開催1回含む)。年間の審査申請総数は51件であり、1回当たり平均3.9件の審査を実施した(最大審査件数11件)。審査結果は「承認」、「条件付承認」、「変更の勧告」、「非該当」のいずれかとし、「条件付承認」となった申請については、修正箇所を確認し承認する「迅速審査」を行った。

また、倫理審査の社会的透明性及び客観性を担保し、同時に申請者や委員に係るリスク管理の保全のために、平成22年度に引き続き、法律家を外部委員として委嘱することとし、中村隆弁護士が委員として審査に加わった。

このほか、審査申請様式・手順等について、委員会で協議のうえ見直しを図り、基本資料の改訂版を作成した。

6) 博士課程設置特別委員会

平成23年度においては、博士課程設置特別委員会の下部組織にあたる「デザイン研究科博士課程検討WG」を5回、「看護学研究科博士課程検討WG」を11回開催した。

学内では博士課程設置認可申請に向け、以前から着実に準備を進めてきたところであるが、平成23年度は、文部科学省に対する5月末の設置認可申請を目前に控える時期に入り、年度当初から両研究科のWGメンバーが申請書全体を精査し、博士後期課程の目指す教育・研究のあり方、人材育成像などをより明確に打ち出すため、それぞれの専門的見地から多角的に議論・協議を重ねた。

そのため、WGは特に4～5月において集中的に開催し、育成する人材像に沿った教育・研究が可能となるよう、カリキュラム、シラバス、履修モデル、教員組織、論文審査体制、入学学生選抜方法な

ど、実際の博士後期課程運営に必要となる詳細な事項について、その具体化を進めた。

また、委員会では、5月下旬に博士後期課程の科目担当予定教員を対象とした説明会を企画・開催した。説明会では、両研究科長から研究科の設置の趣旨・目的等を周知するとともに各科目の位置づけ、ねらい等についても説明し、教員間での共通認識の徹底を図った。

申請に際しては、文部科学省中央教育審議会の答申「グローバル化社会の大学院教育 ～多様な分野で大学院修了者が活躍するために～(平成23年1月31日)」の考え方に留意するとともに、他大学院の状況も参考にしながら、全体を通して一貫性・整合性のある計画となるよう努め、さらに、申請書類の不備等がないか指導・助言を仰ぐため、文部科学省高等教育局高等教育企画課大学設置室へ計6回の事務相談を行った。その結果、8月の面接審査、9月の補正申請を経て、10月に設置認可を得ることができた。

7) 教員評価制度特別委員会

平成23年度は3回の委員会のほか、ワーキングや専門部会を開催し、各教員から提出された教員活動実績申告書のチェックや教員評価書の作成作業を行うとともに、次年度に向けて、申告書様式や記入要領等の検証や見直しを行った。

評価結果については、平成23年度末に任期満了を迎える教員の再任審査に活用した。

また、平成23年度は新たに、研究活動実績を総合的に勘案して研究費を追加で配分する取り組みを試行的に実施した。

なお、教員評価制度が確立したことから、当委員会は平成24年度から、常設の「教員評価委員会」へと移行することとした。

8) 教務・学生連絡会議

教務・学生連絡会議は、平成23年度に11回の会議を開催し、共通教育、デザイン・看護両学部との連携教育に関する事項及び学生生活、課外活動支援に関する事項等について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に即して、必要となる協議を行った。

具体的には、共通教育のカリキュラム改正、学事暦、時間割、シラバス、定期試験及び授業評価アンケートに関すること、また、奨学金、大学祭に関すること等について議論を重ねたほか、毎回、両学部の教務委員会及び学生支援委員会から教務及び学生支援に関する課題を提案し、協議を行った。

9) 研究科教務・学生連絡会議

研究科教務・学生連絡会議は、平成23年度に8回の委員会を開催し、デザイン・看護学両研究科の連携に関する事項、研究科連携科目に関する事項及び学生生活に関する事項等について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に即して、必要となる協議を行った。

具体的には、研究科連携科目である連携プロジェクト演習、院生研究支援費に関すること、また、奨学金に関すること等について議論を重ねたほか、両研究科の教務・学生支援委員会から教務及び学生支援に関する課題を提案し、協議を行った。

構成員名簿

区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
	部局長会議	◎原田 昭 中村 恵子 酒井 正幸 城間 祥之 スーディ神崎 和代 中原 宏 塩澤 正樹	理事長・学長 副学長・看護学部長・看護学研究科長 デザイン学部長 デザイン研究科長 地域連携研究センター長 附属図書館長 事務局長
	企画戦略会議	◎原田 昭 中村 恵子 酒井 正幸 城間 祥之 スーディ神崎 和代 中原 宏 塩澤 正樹	理事長・学長 副学長・看護学部長・看護学研究科長 デザイン学部長 デザイン研究科長 地域連携研究センター長 附属図書館長 事務局長
	地域連携研究センター	◎スーディ神崎 和代 羽深 久夫 原 俊彦 矢部 和夫 武田 亘明 張 浦華 ライト デーヴィッド 小宮 加容子 上田 裕文 坂倉 恵美子 大野 夏代 守村 洋 櫻井 繭子 神島 滋子 三上 智子 坂本 将司 上田 理子	地域連携研究センター長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部助教 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教 桑園事務室長・調整担当部長 事務局地域連携課長
	図書館	◎中原 宏 宮崎 みち子 上遠野 敏 片山 めぐみ 三谷 篤史 山田 良 吉川 由希子 鶴木 恭子 上田 理子	附属図書館長 助産学専攻科長 デザイン学部教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師 看護学部准教授 看護学部助教 事務局地域連携課長

区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
	アドミッションセンター	◎城間 祥之 酒井 正幸 山本 勝則 杉 哲夫 武邑 光裕 細谷 多聞 内田 雅子 渡邊 由加利 安立 卓也 徳永 信之助	デザイン研究科長 デザイン学部長 看護学科長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 看護学部教授 看護学部講師 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
	キャリア支援センター	◎酒井 正幸 中村 恵子 杉 哲夫 樋之津 淳子 坂本 将司	デザイン学部長 副学長・看護学部長・看護学研究科長 デザイン学部教授 看護学部教授 桑園事務室長・調整担当部長
学内委員会 常置委員会	自己点検・評価委員会	◎中村 恵子 酒井 正幸 城間 祥之 スーディ神崎 和代 中原 宏 山本 勝則 吉田 和夫 常野 正浩	副学長・看護学部長・看護学研究科長 デザイン学部長 デザイン研究科長 地域連携研究センター長 附属図書館長 看護学科長 デザイン学部教授 事務局次長
	総務委員会	◎塩澤 正樹 齋藤 利明 羽深 久夫 望月 澄人 山田 良 河野 總子 大野 夏代 河村 奈美子 工藤 京子	事務局長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部講師 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部助教 看護学部助教
	FD委員会	◎武邑 光裕 酒井 正幸 那須 聖 大淵 一博 片山 めぐみ 坂倉 恵美子 守村 洋 菅原 美樹 照井 レナ 安立 卓也 徳永 信之助	デザイン学部教授 デザイン学部長 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部助教 事務局学生課長 事務局桑園担当課長

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
学内委員会	常置委員会	◎羽深 久夫 中原 宏 吉田 和夫 福田 大年 須之内 元洋 松浦 和代 清水 光子 村松 真澄 測本 雅昭 上田 理子	デザイン学部教授 附属図書館長 デザイン学部教授 デザイン学部講師 デザイン学部助教 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部助教 事務局地域連携課長
		◎樋之津 淳子 スーディ神崎 和代 宮崎 みち子 齋藤 利明 矢部 和夫 張 浦華 松井 美穂 藤井 瑞恵 太田 晴美 上田 理子	看護学部教授 地域連携研究センター長 助産学専攻科長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 看護学部講師 看護学部助教 事務局地域連携課長
	特別委員会	◎中村 恵子 原田 昭 城間 祥之 塩澤 正樹	副学長・看護学部長・看護学研究科長 理事長・学長 デザイン研究科長 事務局長
		◎原田 昭 中村 恵子 酒井 正幸 城間 祥之 スーディ神崎 和代 原 俊彦 松浦 和代 塩澤 正樹	理事長・学長 副学長・看護学部長・看護学研究科長 デザイン学部長 デザイン研究科長 地域連携研究センター長 デザイン学部教授 看護学部教授 事務局長
連絡調整会議	学部間	◎酒井 正幸 中原 宏 山本 勝則 原 俊彦 吉田 恵介 定廣 和香子 安立 卓也 徳永 信之助	デザイン学部長 附属図書館長 看護学科長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 事務局学生課長 事務局桑園担当課長

区分		委員会等	委員・構成員	
			教職員名	所属・職位等
連絡調整会議	研究科間	研究科教務・学生連絡会議	◎城間 祥之 中村 恵子 羽深 久夫 望月 澄人 松浦 和代 安立 卓也 徳永 信之助	デザイン研究科長 副学長・看護学部長・看護学研究科長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
		衛生委員会	◎常野 正浩 石崎 友紀 小宮 加容子 松井 美穂	事務局次長 デザイン学部教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師
		桑園地区衛生委員会	◎坂本 将司 清水 光子 菊地 ひろみ 原井 美佳	桑園事務室長・調整担当部長 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部助教
学部委員会	デザイン学部	教務委員会	◎中原 宏 齊藤 雅也 町田 佳世子 大淵 一博 柿山 浩一郎 上田 裕文 須之内 元洋	附属図書館長 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部助教 デザイン学部助教
		学生支援委員会	◎吉田 恵介 上遠野 敏 原 俊彦 細谷 多聞 片山 めぐみ 小宮 加容子	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師
		キャリア支援委員会	◎杉 哲夫 齊藤 雅也 武田 亘明 石田 勝也 小宮 加容子 福田 大年 長谷川 聡	デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部助教
学部委員会	看護学部	教務委員会	◎山本 勝則 内田 雅子 吉川 由希子 菊地 ひろみ 杉田 久子 村松 真澄 山内 まゆみ 測本 雅昭 田仲 里江	看護学科長 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助手

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
学部委員会 看護学部	学生支援委員会	◎定廣 和香子 守村 洋 櫻井 繭子 田中 広美 藤井 瑞恵 渡邊 由加利 神島 滋子 多賀 昌江 照井 レナ 原井 美佳 三上 智子 檜山 明子	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助手
	キャリア支援委員会	◎樋之津 淳子 清水 光子 山本 真由美 太田 晴美 河村 奈美子 工藤 京子 鶴木 恭子	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教
研究科委員会	デザイン研究科 教務・学生支援委員会	◎望月 澄人 羽深 久夫 那須 聖 細谷 多聞 町田 佳世子 三谷 篤史	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師
研究科委員会	看護学研究科 教務・学生支援委員会	◎松浦 和代 定廣 和香子 菅原 美樹 村松 真澄	看護学部教授 看護学部教授 看護学部講師 看護学部講師

◎印:所管部局長